

■ 屋内退避に関する滋賀県の当面の考え方(案)に対する専門会議委員意見(H28.8.2)

委員	意見	対応案
竹田委員、 八木委員、 三澤委員	仮の基準や、県ができることなどについても検討するなど、県としての対応を 考えておくことも必要	今後の課題として受け止め。 屋内退避は全国的な課題であることから、国 に対して課題の解決を求めることは必要で あり、政策提案等で本県の意見を主張してい く。
谷口委員	住民の方が安全安心に生活できるようにするための資料。何が課題であるかを はっきりとしたうえで、国に対して求めていく、という整理が必要。	先に「屋内退避を実施するうえでの課題」を 整理し、このために「国において解決すべき 課題」「県の課題」と整理する。
高橋委員	「UPZ 住民が屋内退避を実施できるよう」という表現は、物理的に屋内退避が できないような誤解を招く。屋内退避で被ばくを低減できることができることに ついて、「しっかりと住民理解を進めることが必要である」という趣旨が伝わるよ うな表現にするべき。 住民理解の促進のためには、安定ヨウ素剤の配布、服用のルール の周知も必要。	「住民が“安心して”屋内退避を実施できる よう」と追記。 安定ヨウ素剤に関しては、今後のリスクミに 係る課題として受け止め。
	熊本地震では、実際に家がつぶれている。屋内に留まることを懸念する住民だ けではなく、物理的に屋内に留まることができない住民に対する対応を決めてお くことが必要。	「多くの家屋が倒壊している場合や」と追記 し、物理的に屋内に留まることができない場 合を追記。
	PAZ では、施設敷地緊急事態の段階で、要配慮者等は先行的に避難を開始する。 UPZ においても同様に、施設敷地緊急事態の段階で避難する仕組みの検討が必要。 その場合は、「屋内退避指示」が出ていない段階での避難となるので、項目に注意。	「PAZ と同様の先行避難の具体化」と修正。
	安心して屋内退避を実施するには、避難へ切り替わる条件が明確化されている ことが重要。次のステップへの見通しを明確化しておかななくてはならない。	タイミングを条件に修正。

	<p>適切なタイミングでの屋内退避の実施や、限定的な屋内退避解除の仕組みの構築について、限定的な屋内退避解除の仕組みの構築を前に持ってくる方が、論旨が伝わりやすい。</p>	「限定的な屋内退避解除の仕組みの構築」とし、課題認識の趣旨を明確化。
	<p>屋内退避の実効性確保について、「正確な予測情報」を求めると、国からは「できない」と言われてしまうおそれ。おおざっぱでもよいので、適切な精度の情報が必要。</p> <p>例えば、「今後数時間は、滋賀県が風下にならない可能性が高いため、放射性ブルームが来ない蓋然性が高い」など、「来るか、来ないか」だけでも良い。</p>	「放射性物質の大量放出のおそれが低く、風向等により放射性物質が飛散してくる可能性が低い時間帯等において」と修正。
八木委員	<p>県民の安心のためには、屋内退避解除後、速やかに健康調査を行う体制整備が必要。この点についても、国に求めていくべき。</p>	「（１）屋内退避の有効性についての住民理解の促進」の中で、「健康相談体制の構築」を追記。
	<p>豪雨災害と同様、事前に避難所を開設すれば、住民はコンクリート造の建物に早めに避難できる。通常の防災対策の延長で原子力災害に対応できる部分もあると思うので、自治体としてできることを考えておくことも必要。</p>	今後の課題として受け止め。
島田委員	<p>屋内退避の効果等はまだまだ研究途上。常に最新の知見を収集し、それを避難計画に反映させるべき。</p>	今後の課題として受け止め。
遠藤委員	<p>住民は、屋内退避の指示が出ていても避難したがるのではないかと思う。常日頃から、教育、リスクコミュニケーションが欠かせない。</p>	<p>今後の課題として受け止め。</p> <p>現在も、消防団や住民に対しリスクミを積極的に行っており、今後も取り組んでいく。</p>

■ 専門会議委員意見（H28.8.2）を受けた修正（案）

修正箇所	修正前	修正後
全体	「2 課題認識の理由」を「1 実効性ある屋内退避に関する課題」と修正し、順番を入れ替え。	
1 ①上の□	、屋内に留まることがより危険であるおそれがあり、屋内退避は現実的とは言えないのではないか。	、屋内に留まることがより危険であるおそれがある。
1 ①下の□ 2 目・	原子力災害が発生した場合、屋内退避の実施はより危険であり、現実的に困難となるおそれがあることが判明。	原子力災害が発生した場合、家屋倒壊等により屋内退避が実施できない場合や、更なる揺れへのおそれから多くの住民が屋内に留まることを懸念する可能性がある。
1 ②上の□	複数日にわたる屋内退避は困難ではないか。	複数日にわたる屋内退避は困難。
1 ②右の□ 4 目・	削除	1 ③右の□に追記
1 ③上の□	実効性ある屋内退避を実施するには、放射性物質放出状況やプルーム通過に関する正確な予測情報が必要である。	実効性ある屋内退避を実施するには、放射性物質放出状況を詳細に監視し、風向等から柔軟に屋内退避の限定的な解除や実施指示を行うことが必要。
1 ③左の○		4 目に追記 ○ 屋内退避指示中であっても、飲料水や食料の補給のためなど、一時的に屋外に出ても安全なタイミングを周知する必要がある。
1 ③右の□	一つ目・ 削除	
2 （1）	、UPZ 住民が屋内退避を実施できるよう、屋内退避の有効性について、住民理解の更なる促進。	、UPZ 住民が安心して屋内退避を実施できるよう、健康相談体制の構築や、屋内退避の有効性の周知による、住民理解の更なる促進。

修正箇所	修正前	修正後
2 (2)	、更なる揺れに見舞われることをおそれ、多くの住民が屋内に留まることを懸念する場合における、最適な原子力防災対策の検討。	、多くの家屋が倒壊している場合や、多くの住民が屋内に留まることを懸念する場合における、最適な原子力防災対策の検討。
2 (3)	屋内退避指示中における先行避難の具体化 (前略)、屋内退避指示中であっても先行的に避難する仕組みの具体化。	UPZ においても PAZ と同様の先行避難の具体化 (前略)、UPZ においても、PAZ と同様の先行的に避難する仕組みの具体化。
2 (4)	屋内退避を避難へ切り替えるタイミングの明確化 (前略) 避難への切り替えを行う」とされているが、このタイミングの明確化	屋内退避を避難へ切り替える条件の明確化 (前略) 避難への切り替えを行う」とされており、避難へ切り替えを行う条件の明確化
2 (5)	適切なタイミングでの屋内退避の実施や、限定的な屋内退避解除の仕組みの構築  放射性物質放出状況やプルーム通過に関する数時間オーダーの予測に基づく、「適切なタイミングでの屋内退避の指示」および「限定的な屋内退避の解除」の仕組みの構築。	限定的な屋内退避の解除の仕組みの構築  放射性物質の大量放出のおそれが低く、風向等により放射性物質が飛散してくる可能性が低い時間帯等において、限定的に屋内退避を解除する仕組みの構築。
3	(3) と (4) を入替え	